

## 第6回

トラック輸送における取引環境・労働時間改善

福島県協議会

日 時：平成29年3月8日（水曜日）

10：00～

場 所：福島県トラック協会2階会議室

## ◎開 会

### 【事務局 福原】

お待たせいたしました。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第6回トラック輸送における取引環境・労働時間改善福島県協議会を開催させていただきます。

各委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。

私、東北運輸局福島運輸支局輸送・監査部門の福原でございます。座長に議事進行をお願いするまでの間、私が進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いたします。

初めに、本日の資料の確認をさせていただきます。

お手元の資料をごらんください。

まず、「議事次第」、「委員名簿」、「出席者名簿」、「配席図」がありまして、その下に資料1「トラック運転者労働条件改善事業（福島県）報告書（案）」、資料2としまして「福島県協議会における平成29年度パイロット事業について」、資料3としまして「第5回トラック輸送における取引環境・労働時間改善中央協議会及びトラック運送業の生産性向上協議会」の資料一式、資料4としまして「国土交通省（東北運輸局）におけるパイロット事業報告書について」、参考資料1としまして「荷主勧告制度の概要について」、参考資料2としまして新聞広告の記事となっております。

もし、不足等ございましたら、挙手の上、おっしゃっていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

続きまして、委員の出席状況についてご報告いたします。お手元に配付しております出席者名簿のとおり、本日は福島商工会議所連合会の石井常任幹事様、アサヒビール福島工場の平野総務部長様、日東紡績福島工場の渡辺副工場長様が所用のため欠席となっております。

なお、高速道路通行止めにより、会津よつば農業協同組合岩本課長様が遅れる旨のご連絡が入っております。

次に、委員の方のご紹介ですが、本来であれば全ての委員の皆様のご紹介をさせていただくところではございますが、時間の関係上、お手元の名簿をもってご紹介にかえさせていただきますと存じます。

また、平成28年度パイロット事業の事業実施集団のメンバーであります皆様にもオブザーバーとしてご出席いただいております。皆様どうぞよろしくお願いたします。

それでは、本協議会の開催に当たりまして、東北運輸局尾関局長よりご挨拶をいただきます。尾関局長、よろしくお願いいたします。

#### 【東北運輸局 尾関局長】

皆さんおはようございます。東北運輸局長の尾関でございます。

今日は天気が急に悪くなって、足もとの悪い中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

今日の協議会は今年に入って第3回目です。通算で第6回目ということで、取引環境と労働時間の改善のための福島県の協議会開催ということで、少しお話しさせていただきます。本協議会は、2つの意味がありまして、人手不足にどう対応するのかということ、それと働き方改革ということで今一生懸命やっていますけれども、これを推進していこうということ。この2つなのかなと思っています。人手不足は、長期的には生産年齢人口が減っていきますので、全産業で色々問題になっていっていますけれども、やはり当面はトラックですね。バス、タクシーを含めて運輸業は、かなり厳しい状況が続いていますので、この人手不足問題についてどう対応していくのかということ、働き方改革ということで、ゆとりのある生活を送るということで、アベノミクスの効果というのを全国に広げていくためにも、取引環境と労働時間の改善をするというのは、政府にとって非常に重要な課題になっているところでございます。

国交省、従前は大体このようなことをやると、トラック事業の皆さんとお話しするだけだったのですが、今回は政府全体を挙げてということで、労働局さんにも入っていただきましたし、農水省さんにも入っていただいて、荷主さんとトラック事業者さん、この両者が相まって協議会をやっていくということは、非常に画期的なことだと思っています、ぜひ成果を上げていきたいと思うわけですが、なかなか始めたばかりということもあるかもしれませんけれども、後ほど説明あるかと思いますが、難しい問題も色々あると思っています。これは、今年で終わりではありませんので、また来年も続きますので、ぜひ今日色々なご議論をいただいて、来年に向けてまた良い取り組みができるようにしていただきたいと思います。

中央の方では、担当しています根本政務官が、昨年の末に農水省さんと経産省さんに対し、いわゆる荷主側を見ておられる役所に対しまして、ぜひこのような取り組みに積極的に関与して欲しいとお願いしたということと、また、トラック業界には、自主行動計画のようなものを作って欲しいと、このような要請もしておりますし、最近では、石井大臣がトラックドライバ

一の皆さんに実際に来ていただいて、今どんな状況なのかという話を聞いたり、トラック業界とかバス業界も含め業界の皆さんを呼んで今度お話をされると聞いております。国交省もこの問題に力を入れておりますので、ぜひ東北6県各県でやっておりますけれども、福島でも皆さんの力をお借りして良い協議会にしていきたいと思っております。今後に向けて皆様方のご協力をよろしくお願ひいたしまして、私の最初の言葉とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【事務局 福原】**

尾関局長、ありがとうございました。

それでは、これからの進行につきましては、当協議会の座長の今野先生にお願ひいたします。

**◎議 事**

**1. 平成28年度トラック運転者労働条件改善事業（福島県）報告書（案）について**

**【今野座長】**

おはようございます。

それでは、早速でございますけれども、議事に入らせていただきます。

議題1の「平成28年度トラック運転者労働条件改善事業（福島県）報告書（案）について」につきまして、まず、日通総合研究所の岩崎研究主事補様から説明していただきます。よろしくお願ひいたします。

〔日通総合研究所から資料1により説明〕

**【今野座長】**

どうもありがとうございました。

ただいま日通総合研究所の岩崎さんからご説明いただきましたけれども、少し時間を取りまして、皆さんから、岩崎さんのご報告・ご説明に対し、ご質問あるいはご意見等をお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。どうぞ。

**【右近委員】**

前回もこれ報告書を出されて説明していただいて、ほぼ同じ内容ですね。

2点あります。1点は些細な話です。時間と時刻表記っていうのは、区別した方がよろしいですから、時刻表記ばかりになっています、この書き方は。時間というのは、時間に丸をつけて分にプライム、ダッシュを付けるということにしないと、時刻なのか時間なのか分からないので、非常に見る方としては紛らわしいと。それは簡単な機械的なことなので、時刻と時間の表記は変えた方がいいと思います。

あともう一つは、前回も言ったのですが、例えば8ページ、図表2-6に立寄り時間の平均と最長が書いてあって、分散って、きつとこういうことやる方はご存じだと思うのですが、どのぐらいばらついているのかっていうのが知りたいのですよ。例えば、平均2時間、最長5時間で、例えば9回のうち1回だけ5時間だったのか、ほとんど4~5時間が揃っているのかが全然分からないので、分散で標準的なばらつきが1時間ですという情報が絶対必要じゃないかと思います。着荷の方はほとんど分散がゼロですね。ほとんど平均と最長が一緒、川崎と横浜だけが混むのでしょうかね、いっぱいになっていたりする。こういうときのやっぱりばらつき、分散がないと、実態がわからないということと、その分散が分かってからの話なのですが、何でばらつくのかという追求が、前（第5回協議会）も言いましたけれども、足りないのだと思います。そこを分析しない限りは、この課題には、対策にはつながらないということなのです。

本当に荷さばきが問題になっているかどうかっていうのは、実際は違うのだと思うのですよね。集荷がばらばらに入ってきて、もうどんどんずれていくと。だから、もう期限を切ってここでやめますという対策が一番じゃないかなっていう気がするのですが、それが要するにデータと分析を通して対策につなげないと、レポートとしては説得力に欠けることになります。

**【今野座長】**

それに対応して岩崎さんの方で何かありますか。

**【岩崎研究主事補】**

ご指摘いただいた単純な表記と集計の仕方のところは、修正をさせていただきます。

あとは、その内容を見てばらつきを見た中で、もう少しつけ加えるような内容がありましたら、少し修正をさせていただきます。

**【右近委員】**

これを見ると選果場は問題ですよ。

【岩崎研究主事補】

そうですね、はい。

【右近委員】

選果場の何が問題か。選果の場所に生産拠点から入ってくる時の時間が一定でないということじゃなかろうかと思うけれども。

【岩崎研究主事補】

私が見た感じだと、選果場で、どうしても選果をするための機材に流す作物が1種類ずつになる。例えば、まずモモを流して、次にトマトを流すという場合、先に選果するモモの量が非常に多いと・・・どうしてもその次にやるトマトが・・・

【右近委員】

要するに選果作業に時間がかかっているということ。

【岩崎研究主事補】

選果作業、そうですね。

【右近委員】

普通なら、選果作業に入る前の準備に時間がかかるような気がするんですが、そうではないと。なら、色分けがいいかどうかは別にして、選果作業はじゃあ改善しましょうという提言にはつながる。

【今野座長】

この延べ回数の9というのは、単純に、例えば車でいえば9台がばらばらに行って、同じ車であっても、あるときは何時間かかかり、あるときは何時間かかっているというのがずっと同じ、条件は基本的には同じなのですか。ただ選果する時間がかかっているという。

【岩崎研究主事補】

はい、選果する時間がかかっているからと。

【今野座長】

さっきのばらつきとか分散というのはどうですか、違うのですか。

【右近委員】

いや、それならば、2時間と5時間の差は本当になんだったのかというのを、5時間がどのくらい頻度があるかなんですけれども、何か本質的に違うものがありますので、2時間と5時間では。どっかの農家が寝坊しちゃったんじゃないんですか5時間ずっと、というような気がするんですけれども、そんなことはない。これはやはりもっとデータを分析した方が説得力がありますねという。

【平栗委員】

量がわからないですよ。このところの物量が・・・

【今野座長】

量がわからない。

【平栗委員】

量が多いから5時間かかっているかもしれないし・・・

【右近委員】

そうそう。そしたら全然問題ないのかもしれないし・・・

【今野座長】

同じ量でそんなに時間の違いがあるのならば、かなりの形態の違いがあるのか・・・

そういうことの表計ですね。

ほかの点でももしございましたら、ご報告をいただいて、ご質問、ご意見いただければと思います。ごさいませんでしょうか。

選果場というのは、青果としてはやはり多くなるんですね。多量というか、ただ柳津の選果場というのは短いすよね。

【田母神委員】

(出荷品目が) キュウリだけだからでしょう。下書いているのを見ると単品ですから、多分そういうのも加味して・・・

【今野座長】

キュウリだけです。ああそうか。

その量とか種類とか、単純に多いとか少ないかによって時間が、だから収集に何か合理的でないようなものがあって、何かどこか改善すればいいっていう話なのか、単なる種類、種類はこれ変えられないでしょうから。

【右近委員】

一番かかっている永井野っていうのは(データが)ないのですね、下に。なぜなのだろう。

【今野座長】

品目ですか。

【右近委員】

品目と物量に関して、永井野っていう拠点が無いのは・・・

【岩崎研究主事補】

これ私もいただいたデータをまとめたもので、その中になかったという・・・

【右近委員】

一番欲しいところがないと・・・

【今野座長】

かなり大きなところですか、永井野って。もう少し永井野の扱っている品目とか物量がわか



ると、先ほどの疑問も解けてくるのかもしれませんが・・・

ほかにありませんか。色々と少し出された意見も含めながら、もし修正が可能であれば全国版の報告書のときには少し近い形に、可能かどうかにもよるのですけれども、反映していただくということになると思うのですが。よろしいですか。何かございますか。

それではそういう形で、今もつのご意見あるかとは思いますが、今出された意見等を参考にさせていただいて、報告書の方に反映するようにしていただきたいというふうにお願いいたします。よろしく申し上げます。

## 2. 福島県協議会における平成29年度パイロット事業について

### 【今野座長】

それでは、1番目はそうしていただきまして、議題の2番目の方にまいります。

「福島県協議会における平成29年度パイロット事業について」に入りたいと思います。

まず、事務局より説明をお願いいたします。

[事務局から資料2により説明]

### 【今野座長】

ありがとうございました。

今事務局のから、お願いも含めてご説明をいただいたのですが、何か皆さんの方で、これにつきましてご質問等がございましたらお願いいたします。

3社にお願いして、なかなかご了解が得られないということで、やはり実際にお話ししないとだめなので、やはり非常に調査対象にするというのは大変なことなのでしょうけれども、本当はそれをやる、企業の方でぜひ自分たちも今問題抱えているということで、何を解決したらいいのかということで、積極性があれば非常に、我々も地域の人間なのですが、何かどうすれば良いかということも含めて、いかがでしょうか。はい、お願いします。

### 【尾関委員（東北運輸局長）】

何で断られているの。

### 【事務局 高橋】

1社は、実を申し上げますと内諾直前まで行ったんですけれども、こういった事業に協力するということになる、社内外から「問題があるからこういった協議会の体制でやっているんじゃないか」という、そういう悪評が立つ懸念が払拭できないということで、最終段階で残念ですがというお話になりました。

ほかには、既に自社で取り組みをやっている、パイロット事業に協力すると並行して同じようなことを進めることになってしまっていて、煩雑になってしまうのでご辞退しますというようなどころもございました。

**【続橋委員】**

実名を出さないといけないっていう事になっているのですか。

**【事務局 高橋】**

実名は出さなくても結構です。

**【続橋委員】**

それでも・・・

**【事務局 高橋】**

それでもだめだということです。もちろんご説明申し上げたんですけれども、お受けにはならなかったということでございます。

**【今野座長】**

色々モデルになると非常に、社会的に注目されることはあるんでしょうけれども、ただ、労働環境に非常にいいことをやっているとなると、かえってそれ自体を売りにするということがあるんでしょうけれども、なかなかやっぱり負担が多いんでしょうかね。あるいはそういう課題にまだ直面していないというか。

これはたしか農産物の場合には、かなり時期的なもので、たしか急いだんですね。やっぱり収穫期を除いてということだと非常にまずいというので、これは少し時間かかっても構わないんですか。この傾向、例えば農産物だと収穫期ということを非常に重視して設定したんですけれども。

**【事務局 高橋】**

やはり輸送の品目によるというところはもちろんございますので、本年度の本県の場合であれば、そういった急いでやらなくてはいけないというのがございました。早く選定して、動き出しが早いにかしたことはありませんので、どういった品目にも対応できるよう、できるだけ早く選定作業を進めたいと考えております。

**【今野座長】**

皆さんの方から何かお知恵を拝借したいということもあるんですが、何かありますでしょうか。ご質問、ご意見いただければと思います。

もちろん今後も事務局に努力していただいて継続するということになりますけれども、何かありますか。

**【右近委員】**

具体的な名前は結構なんですけれども、どういう規模のどういうところを選んでお願いしたんですかね。

**【事務局 高橋】**

前回の協議会において決定いただきました軽工業品か雑工業品で選定をさせていただきました。けれども、ちょっと大きなところでして、工場は県内にあるのですが、本社が県内にないところが大手なので少しご協力いただけるかなというのもございまして、当たったところがございます。

**【右近委員】**

物流大手を。

**【事務局 高橋】**

基本的には少し大きめの工場を選定して、当たったところですよ。

**【今野座長】**

その分野の、例えば事業者の協議会みたいな団体はあるんですか。それが参加している団体。ターゲットにしたいようなところが。

【事務局 高橋】

団体というようなターゲットの絞り方はしておりません。

【今野座長】

そうですね。福島に本社がないとなかなかご協力いただけないんでしょうか、工場だけだと。

【尾関委員（東北運輸局長）】

全国的に、先ほどおっしゃったように、このパイロット事業に選ばれると悪いことをやっていたのではないかという捉え方をされるので、なかなか荷主企業側の協力が得られないというのは、全国的に見られることなのです。このような部分もありまして、先ほどお話ししましたとおり、国交省の根本政務官から農水省と経産省の政務官に対して協力要請を中央ではやっているのですけれども、東京に本社がある場合、東京（本省）側でも本社へお願いをするような、そういう工夫も必要かなと感じますし、地元でも、先生がおっしゃるように、例えば軽工業団体のような団体があれば、本当はそこをお願いをしてどこか選んでもらうというやり方もできるのですが、県単位とか東北単位のような、地方の支部などがある団体は余りなくて、なかなか頼みづらいというところもあります。いずれにしてもこの話は、荷主さんの協力を得ないと上手くいかない話ですので、労働局さんと運輸局も含め、頼み方などもう少し工夫が要ると思っていますところですよ。

【今野座長】

農林水産関係は非常にスムーズに、何かほかの県と比べると福島は早いというふうに褒められたような感じはしていたんですが、それはやっぱり特殊だった、やっぱり農協、JAさんの力が。

【続橋委員】

問題意識を持ってたんです。

【今野座長】

問題意識を持っていたという。

これは発荷主さんだけの困難じゃなくて、最初にあった着荷主さんの困難ですか。

【事務局 高橋】

お願いしたのは3社、現在回答待ちも含めて4社とも発荷主さんにお問い合わせをしております。事業としては、着荷主さんが絶対というわけではないということで聞いておりますので、着荷主さんなしということでも事業は回せるということにはなっております。

【今野座長】

この運送事業者は、何かもう既にお話しはしています。

【事務局 高橋】

そうですね、内諾直前まで行ったところは、元請の輸送事業者さんと下請の輸送事業者さんまで全部話をつけていただいていたんですけども、その段階で本社から待ったがかかったというものです。

【今野座長】

ということですが、何か。いかがでしょうか。事務局に頑張ってもらいたいというような感じもしますけれども、頑張り方の問題かなど。大変なお願いかもしれませんが。問題意識がかなり、こういうのを一つのきっかけにして改善しようなんていうことがもしあれば、非常にうまく乗れるんですけども、この事業を必要と感じてないというのも・・・

これは全国的には、やっぱりこういう困難、どこでもあるんでしょうか。地方だから困難なのか。

【尾関委員（東北運輸局長）】

中央では大体団体に話をするんですね。まあ、分かりますけれども・・・やはり中央に行つてこのような“実玉”っていうんですか、実際に会社が出てくると、東北だけじゃなくて全国的に（断られるという）そのような状況があります。先ほど（今野座長が）おっしゃったように、（パイロット事業が）早目に進められたのが例外というか、少ない方で、そのような意味

では（福島県協議会は）前進しておりました。やはり、その目的自体が取引環境・労働時間改善なのです。

全国的に見ると、先ほどお話が出ましたけれども、（改善を）手がけているところが結構パイロット事業に乗ってきてくれているという感じではあります。今やろうとしていることを事業に乗せて進めるという傾向もあります。余り問題意識がないと、逆に悪く思われてしまうということになっているようです。

**【今野座長】**

どうも社会的な影響力が大きな発荷主さんの方に頭がいつてると思うんですけども、やはり余り小さなところは、中小のところだとなかなか大変なんですか。かえって大変かもしれませんけれども、ただ理解はしてくれる可能性はあるかなと。

**【事務局 高橋】**

そうですね、ちょっと我々の方でまずは大きなところの方が、こういった社会的な責任感といったものも含めて、受けていただける可能性が高いんじゃないかなということで、当たらせていただいたところでございます。

**【右近委員】**

余り具体的にはここって言えないんですが、大手よりも、大手をターゲットにしている上り調子の中規模のところっていうのが、一番そういう労働環境に関してコスト競争力が激しいところでもあるので、そういうところの方が。ここに大手さんいらっしゃるんで、きっと余り、そういう意味では問題を抱えていないことが多いんじゃないかという気がします。

それからその辺の、軽工業っていうのは、差別化っていうのは効率化なんでしょうけれども、コストを切るのが第一というところではありますから、それはやっぱり中規模というところが、余り全国ネットを持っているところじゃない方が、今回の話としては成果が得られると思います。

ただ、今みたいな話を聞くと、今回の改善のテーマの本幕がどこにあるかというのがよく見える話ですよ。

**【事務局 高橋】**

ありがとうございます。

また設定につきまして、改めて検討を進めたいと思います。ありがとうございます。

**【今野座長】**

本当は大きい方と、中小のところとか、規模が違って見るのは（有効かも）しれない。確かに大きなところは、本社は東京にあってこちらは工場だけだというと、工場の方の権限そうないでしょうから。ただ、福島で福島の人たちが働いてやっているとすれば、ぜひ本社にも協力していただくということをお願いしないと、なかなか我々も協力する立場には立てないというふうになりかねないので、その辺、これは事務局で今言われたように、さまざまなことを考慮して追求してみたいということでございますので、いかがでしょうか、事務局にこれはお任せして、次回に検討させていただくということよろしいでしょうか。

もし、皆さんの方からも、直接でもご連絡いただければというふうに思います。

それで、皆さんからの貴重なご意見、色々ございましたけれども、次回の協議会で平成29年度のパイロット事業実施に係る協議ということになりますので、ぜひもう少し事務局で努力していただいた上で、次回も活発なご意見をお願いしたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

それでは、今日は予定していたのはその2つだけでありまして、全ての議題が終わったという形になるんですが、何かこの機会にということ、よろしいですか。

その他に移らせていただきます。事務局から報告をお願いします。

**3. その他**

〔事務局から資料3、4、参考資料1、2にて説明・提案〕

**【今野座長】**

事務局から、お願い、ご提案という形になっていますが、よろしいですか。皆さんにもご意見いただきたいと思います。

**【事務局 及川】**

はい、よろしく申し上げます。

【今野座長】

はいどうぞ。

【尾関委員（東北運輸局長）】

補足しておきますが、報告書ですが、東北で作っている、東北でやっている内容を、大体同じように作りたいということで、ご提案しております。先ほど、事務局一任というお話がありましたけれども、そうではなく、一回最終の報告書の前に作って、皆さんに一回流して、ご意見いただいて、それでよろしければ最終報告書ということで、修正ができればありがたいと思います。もう一回最終でこの形になりますというものをお渡ししますので、ご意見等をいただき検討して、最終報告書にまとめると、そのような形になるかなと。

【今野座長】

そういうことでよろしいですかね。事務局、それでよろしいですか。ということで、皆さんご協力をいただきたいというふうに思います。

これで事務局の方に、お返ししますのでよろしくお願いいたします。

◎閉 会

【事務局 福原】

今野先生、ありがとうございました。

最後に、協議会の閉会に当たりまして、福島労働局島浦局長様よりご挨拶いただきたいと思っております。島浦局長様よろしくお願いいたします。

【福島労働局 島浦局長】

福島労働局の島浦でございます。

この協議会の事業につきましては、東北運輸局の尾関局長から冒頭挨拶がございましたように、働き方改革、そして人手不足対策という観点から、非常に重要な事業だと思っております。

そのような中で、今般、平成28年度のパイロット事業の報告書がまとまりつつあるということで、まずは実施集団でお取り組みをいただきました皆様に対して、改めて敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げる次第であります。本当にありがとうございます。

また、平成29年度の集団につきましては、まだ道半ばでありますけれども、私からも一つ



補足をさせていただきますと、運送事業だけではなくて、政府全体として進めている働き方改革については、全ての企業において取り組んでいる状況がございます。そのような中で、労働局の中でもコンサルタントを置いて、コンサルタントを使っていかがでしょうかという呼びかけもさせていただいているんですが、先ほど尾関局長からもございましたように、「いやいや、うちは自社でやっているから国が入ってくるまでもないんだよ」という形とか、まだまだそのようなところがあります。

申し上げたいことは、無理を押しして実施集団となつていただくことは非常に難しいとカンガ会えております。やはりご理解をいただいて、問題意識を持ってこの実施集団として手を挙げていただくことによって、主体的なお取り組みをいただく中で、協議会の各委員の皆様から色々なご意見等も賜って、よりよい事業になっていくのかなと思っております。

そのような観点から、平成29年度の実施集団について、鋭意選定に力を注いでまいりたいと思います。

また、本日は本当にどうもありがとうございました。

#### 【事務局 福原】

島浦局長、ありがとうございました。

(「済みません、最後によろしいですか」の声あり) はい。

#### 【福島県トラック協会 渡邊会長】

トラック協会の渡邊と申します。日ごろ、運輸労連を初め、荷主の皆さんに大変お世話になっております。当然運輸局、労働局の皆様にも大変お世話になったり、ご迷惑をおかけしていることと自覚しております。

パイロット事業、福島県、平成28年度は全国に先駆けて、それなりに成果が出たということで大変喜ばしいことですが、平成29年度は残念ながらまだ決まらないと。今後進捗を見ていきたいと思っておりますけれども、最初の尾関局長からの人手不足、働き方改革、全く我々の方と同じような考えでございまして、根本政務官が農水、経産の政務官にも色々お話しいただいているということは心強い限りでございましてけれども、このパイロット事業、労働時間の改善を考えてみると、我々運輸業界の一番末端のところの時間を短縮しようという、言葉は悪いですが、こせこせしたようなやり方に感じるんですよね。そういうのは、我々の業界、今日も新聞で大きく、我々宅配便と区域と分かれていますが、宅配の大手のヤマト運輸がア

マゾンと運賃の値上げの交渉をすとか、運転手の労働時間を改善するには運賃を上げていかなきゃならないんだというようなことになってございます。

この時間外についても、電通さんの若い女性がかawaiiそうに自殺したということで、今国会でも60時間だ80時間だ、月何時間の最長年間720時間だと、数字がひとり歩きしているような状態ですけれども、トータルで考えると、やっぱり我々業界、宅配さんと、我々今パイロット事業やっているのは一般貸切という部門ですが、一般貸切の部門というのは、今グローバルな世界と言われてはいますけれども、基本は車上受けの車上渡しなんです。運転手さんは積み込み場所に行って、車が積めるようにあおりをおろすなりウイングをあけるなりする。積み込むのはお客さんの仕事です。着地に行って、荷物はい着きました、どうぞおろしてください、受け取ってくださいというのが受け荷主の役目ですよというのが、まずこの基本的なことがお客さんにご理解をいただいていない。宅配便も2回配達だの、3回配達だのというのが、末端のそういうことだけが問題になっていて、我々区域業者もまさしく末端の、積み込みから取りおろしから全部、あるいはラッピングから、全部運送事業者がやっているというのは、これはサービス過剰のほかありません。

やっぱり基本的に戻って、私はこのパイロット事業、大変入り口に入って福島県先進的にできてありがたいことだとは思っていますけれども、むしろ取引環境という方向に力を入れていただければ、今るる申し上げたようなこと。当然、簡単に申し上げれば、ここにも今日も及川政務官から運賃交渉の手引きなんていうのもいただいてありがたいことなんです。そういうことを荷主にいかに、今日のアンケートにも改善告示なんていうのを知らないというんですから。知らないところに、末端のこの時間を1時間削ろう、2時間削ろうなんて言ったって、無理な話なんです。わかっていないんですから。

ですから、やっぱり基本は取引環境の方をむしろ、この力を、残った時間、平成29年度もパイロット事業あるわけですけれども、ぜひぜひ国交省、厚生労働省も、その辺を頭に置いて、一番先端のごちゃごちゃしたことじゃなくて、基本的に戻って、荷主、お金を払う側ですね、我々今宅配もそうですけれども、サービスをやっている、積み込みだ、パレットだ、取りおろしだ、はい、そのフォークリフト運転しておめえたちおろせ、そのフォークリフトつかって積み、これが実態ですから。

労災事故の防止も含めて、取引環境というのをお話しすると、書面から何かっていうのは出てくるんですが、やっぱり荷主に一番理解していただくのが第一だと思いますので、そのところを、我々運輸業者は非常に弱い立場にあるということで、ぜひぜひ各省のお力添えで、取引

環境の方にぜひ力を入れていただきたいということをお願い申し上げて、閉会のご挨拶もいただいたところ申しわけありませんけれども、ご意見として挙げさせていただきます。よろしくお祈いします。

**【事務局 福原】**

渡邊会長、貴重なご意見ありがとうございました。

それでは、皆様も本日は貴重なご意見を賜りまして、大変ありがとうございました。

今回の協議会の議事録につきましては、委員の皆様にご確認いただいた後に公表させていただく予定でございます。

次回の開催は、事業集団の選定状況を踏まえまして、5月ごろに開催できればと考えております。開催日の日程調整につきましては、会が近くなりましたら事務局よりご連絡を差し上げる予定です。

以上をもちまして、第6回トラック輸送における取引環境・労働時間改善福島県協議会を終了いたします。本日はお忙しい中、まことにありがとうございました。